



教育委員会より

「多久から発信！SDGs③」

「SDGsを知って私が考えること」

東原 岸含中央校 6年2組 徳永 結月

私は、自主学习でSDGsについて調べました。SDGsとは2030年までに「誰一人取り残さない」社会の実現を目指す国際目標です。SDGsには、17の目標があります。SDGsについて調べてみて、私たちには「つくる責任、使う責任」があることを知りました。例えば、食品ロスを減らすために、買い物をする前に家にある食材を確認したり、すぐに食べるものは消費期限が近いものを買ったりすることが出来ます。また、電気や水などの無駄遣いをしないために、テレビなどをつけっぱなしにしないことや、洗い物などの時に水を出しっぱなしにしないことも私たちが身近にできることだと思います。その他にも、ゴミの分別を徹底することや災害に備えることも私たちにできるSDGsだと知りました。

私はこのことを知って、2030年までに目標を達成しないとあらゆる問題が深刻化してしまうことがわかりました。そうならないために、生産者も消費者も、地球の環境と人々の健康が守れるように、今何が起きているのかを知り、何ができるかを考え、そして行動することが一人一人に求められていると私は考えます。



連載

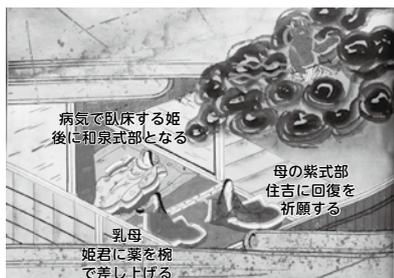
紫式部・和泉式部・小式部の物語 挿絵(3)

多久家資料「小しき小式部」を編集

『小式部(上)』挿絵3 紫式部の子の話(その2)



姫が13歳の春に突然病気になる、手を尽くすも悲嘆にくれます。そこへ鬼が降りてきます。



病気で臥床する姫後に和泉式部となる

母の紫式部住吉に回復を祈願する

乳母姫君に薬を椀で差し上げる

紫式部の子は美しく成長しましたが、十三歳の春に突然病気になる、陰陽師が占うと、邪気に取り憑かれ、祈祷も叶わないと言いつて、帰ってしまいました。住吉大社に、命に替えて救ってくださいと、母は祈願しました。しかし、最期の時が来たとき親子で悲嘆にくれます。卯月のころで、不如帰の音が聞こえると、姫は息の下で「ホトトギスよ 死出の山路のしるせよ 親に先立つ道知らねば」(ホトトギスよ 死出の山路の道案内をしないさい 私親に先立つてあの世へ行くので 冥土への道を知りませんか)と詠みました。

ちよつどの時、上から恐ろしい程の音がして、角が五つ顔が三つある赤鬼が天井を打ち破り、白玉のような涙を流しながら大声で言うのです。「可哀相だが、定業にも限りがあり、冥途に連れて行くところ、姫の歌を気の毒に思われて憐れみ、十王も神々もこの度はお許しになるとのことだ。この秋頃には内裏からお召しがあり、帝の恵みにあずかるだろう、それでは我は帰るぞ」と声をかけ、破風から天へ上がりました。『挿絵3』

そうしているうちに、病気は治り体調は回復しました。このことを天皇もお聞きになられ、特別な御衣と御袴に加え掛け帯、玉鬘、御守り、綾の沓、錦の裳も賜りました。そして名を和泉式部と呼ばれた、と物語は記しています。

※原本の挿絵は色絵になっています。郷土資料館に写真を掲示していますので、お立ち寄りの際にご覧ください。

多久市郷土資料館長

藤井伸幸

市民文芸

◆ひわの実が少しずつつきききて
作業の合間に食べるは嬉し
梶原恵美子

◆感動は僕のふるさと物語
迷うことなく完成させる
野崎 隆幸

◆澄み渡る朝のひかりや川底の
石の見えきと稚魚遊びあり
川浪 信子

◆黄金色に広がる麦田 人気なく
コンバインの音す遠く近くに
浦野 嘉恵

◆「映像の世紀」が戦後を映し
「あんなもんじゃなかったの世代死にゆく」
尾形 節子

◆紫陽花の 蕾抱きて 雨もよい
おおやはな

◆緑陰の奥に呼び合ふ鳥の声
武富 律子

◆連休をひとり黙々麦を刈る
本村 則子

◆あんみつのはじよく冷えて茶屋の屋
富樫 明美

◆螢火に水の流れの留まらず
大石ひろ女

◆暇という言葉を知らず 逝つた母
田代まつこ

◆釣れたよと引いて合図をする魚
西山 残月

◆貰つても興味なしです 割引き券
田中 正春

◆あれこれとおみやげ選びこれも旅
大谷 和

◆跡継ぎの地下足袋二年 まだ出ぬ芽
小副川ヨシエ

川柳 《多久川柳会 互選》

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《大石ひろ女選》

川柳 《多久川柳会 互選》